

電子写真機變愛

第二夜

レトロ路線炸裂！ クラシックデザイン復刻！ タッチパネルもいいけどダイヤル操作こそ至高！
デジタルカメラの温故知新、富士フィルムX-T10登場！

ぜひや&レディス&ジェントルメン。このX-T10には富士フィルムが長年培ってきたテクノロジーが投入されているのでございます。映像素子は1670万画素AP-SiCサイズのX-Trans CMOS IIセンサー、撮影感度はISO100から51200。特筆すべきはカメラが最適な撮影感度を決定するISOオートを最大ISO6400を選べる点であります。これは「ISO6400までなら画質に自信があります」と言っているようなものであり、それととりわけ画質に厳しい富士フィルムがOKしているというところは高感度の画質に関しては、とてつらくOK、なんの問題もなかるうもね！ おっと興奮して九州弁になつてしまってもいいです。

そしてレトロでクラシカルな外觀に感わされてゆるふわファッションフォト系とあなるなかれの連写性能は最大8コマ毎秒。そこにピンポイントでフォーカスを合わせるAFシングルポイント、区画ごと被写体に合焦させるゾーン広いエリアでフォーカスを追従させるワイドトラッキング。それぞれAF-S、AF-Cモードに対応し6バタンのフォーカスマーを使い分けることにより、高速度な連写性能と相成り、動体にも強いミラレス一眼となつておるのでございます。

さらに、富士フィルムカメラ専用アプリをダウンロードすることにより貴方のスマホはX-T10と強い絆で結ばれ、WiFiで見たり撮ったり笑ったりできるようになります。レトロな外觀でもこのへんは容赦なく最新のデジタル機器なの

こ ん な 寫 眞 に 變 を す る



XF18-55mm F2.8-4 R LM OIS (標準域)

僕が富士フィルムでお気に入りの機能はアドバンスフィルター「ダイナミックトーン」。その名の通り、ダイナミックな諧調が現実と幻想の間を行き来させるフィルターなのだけど、この手のフィルターにありがちな濁りを感じさせず空の青は青、山の緑は緑として描写する点が素晴らしい。よって黎明薄暮、エブリタイム傑作を狙いたい。そんなときにXF18-55mm F2.8-4のシャッター速度にして4段分の手ブレ補正はありがたし。

撮影データ
絞り: f 5.6
シャッター速度: 1/750秒
感度: 200
焦点距離: 35ミリ (換算約50ミリ)
アドバンスフィルター: 「ダイナミックトーン」使用



XF18-55mm F2.8-4 R LM OIS (望遠域)

どえらく私情を挟んで恐縮ですが、富士フィルムのデジカメはほんとうに自然を描写したときの発色が素晴らしいと思うのであります(俺比べ)。なので、どうしてもそのすぐれた発色にうっとりしちゃってレンズの描写力を見落としがち(俺調べ)。そこでじっくり描写力を見てみると、どのXマウントレンズもキラキラの描写力。標準ズームとて例外ではありません。XF18-55mm F2.8-4は切れ味するどく隅々まで描写します。それにつけてもX-T10のアドバンスSRオートの半断力に脱帽。

撮影データ
絞り: f8 (オート) ・シャッター速度: 1/420秒 (オート)
感度: 3200/3200 (オート) ・焦点距離: 55ミリ (換算84ミリ)
撮影モード: アドバンスSRオート

FUJINON / XF18-55mm F2.8-4 R LM OIS



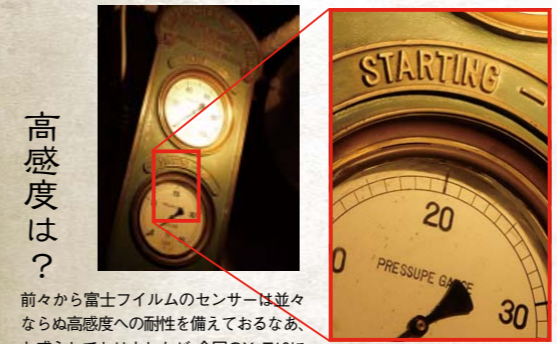
写真と文 織本知之

ひさびさに古都鎌倉を散策してまいりました。というも小学校の遠足がたしか鎌倉だったよな……覚えてるのは木刀とタペストリーとお土産提灯に書かれた鎌倉という文字のみはかななメモリ。ああ、あのときデジカメさえあればなア……。シシカメラ万歳。



機能性は？

初めて目にした瞬間にがっかりしたのは内蔵ストロボが搭載されていないと思ったから。みんなイロイロ言うけど、アレはあったほうが断然便利だから。で、左肩の謎レバーを動かした瞬間、魔法のように飛び出した奇跡の内蔵ストロボに歓喜！スーパーフラッシュはGN7でCMOS調光。



高感度は？

前から富士フィルムのセンサーは並々ならぬ高感度への耐性を備えておるなあ、と感心しておりましたが、今回のX-T10には驚いたのなんの。ISO3200でこのノイズレスかい！ そうだよなあ、ISOオートで6400まで上げられるなら、3200は余裕だよな……と思いつつマニュアル操作ではなかなかそこまで数値を上げる踏ん切りつかず。このカメラならISO感度上げてオーライ！ と、まずは撮り手の意識革命。



AF力は？

逃げ回る獣にたちむかう猟師。そしてそれを取り巻く細い笹藪。つつうオートフォーカス機構には悪夢のようなシーンで大活躍のシングルポイント/AF-Cフォーカス。と毎秒8コマの高速度連写&リアモーターが素早くフォーカス駆動のXF18-55mm F2.8-4 R LM OISの組み合わせはブッシュにもへこたれませんでした。正直このフォーカスの食いつきの良さにビビってます。



富士フィルム X-T10 レンズキット

有効画素数: 1630万画素
背面モニター: 3.0型約92万ドット上下可動式
撮影可能枚数: 約350枚
撮影感度: 100~51200 (拡張設定)

いっぺんでスキになるという
事業がまねに起きます。
これがオトナの世界的アレコレだ
といういるモメたり、高くついたり
する場合があります。いや、タ
ダで済むほうがマレであります。
くわばらくわばら。しかし、カメ
ラについての浮気や鞍替えは多く
の人が容認するところであり、本
人も妻妾同義諸手に花で実に来
しく活き活き
としてくる
のであります。
あっちもいい
がこっちも良い
なあ……。
今回、富士フイ
ルムのX-T10を
レポートできたの
は僥倖であり偶然で
あって、運命のイタズラ
なのであります。そう、手
にした瞬間に恋に落ちた
のでございます。

通常、こういうケースでは若い
キツネが三十路の狸であれば「そ
りやあびつちびつちの最新デジタ
ルのキツネだろっよ」となりが
ちです。しかし、X-T10は最新な
れどそのボディデザインはクラシ
ックでありまして、シャープでエ
ッジなデジタルガジェットとい
うより「おとつさんの一眼レフカ
メラ」的な安心感を感じるライン
レトロ感で鳴らしたアニキ分の
X-T10よりいくぶんまた時代を
遡った感じでありまして。
この魅力、ひとことで言うなら
ば安心感。性能スペックに頼らな
いゆるぎない魅力を感じます。
ただし「なんだ、見た目だけな
んだ」って思ったら痛い目に会っ